

社業の発展を通じ社会に貢献する

2022年3月期 決算説明資料

変革と挑戦 強く価値ある会社へ

西華産業株式会社 (東証プライム市場 証券コード8061)



SSC 西華産業株式会社 SEIKA GROUP

1

皆様、こんにちは。社長の櫻井でございます。

皆様方には、平素より西華産業にご関心をお寄せ頂き、誠にありがとうございます。
新型コロナウイルス感染が心配される中、またご多忙のところ、本日の決算説明会にご出席たまわりまして、誠にありがとうございます。

2022年3月期 決算説明会につきましては、説明会の開催に加え、後日動画の配信もさせて頂くことにいたしました。

本説明会および動画を通じまして、当社についてご理解を深めていただければ幸いです。

それでは、始めさせていただきます。

CONTENTS

01

2022年3月期
連結決算概要

02

2023年3月期
連結業績予想

03

長期経営ビジョン
VIORB2030

★参考資料★

今回の決算説明では、ご覧の項目について説明いたします。



01

2022年3月期 連結決算概要

それでは、2022年3月期の連結決算概要からご説明いたします。



2022年3月期 連結決算概要

	2022年3月期 期首予想	2022年3月期 実績	増減率
取扱高	130,000 百万円	134,261 百万円	+3.2%
売上高	88,500 百万円	85,307 百万円	△3.7%
営業利益	2,850 百万円	3,824 百万円	+34.2%
経常利益	3,100 百万円	3,879 百万円	+25.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,950 百万円	2,246 百万円	+15.2%
	2022年3月期 予想	2023年3月期 予想	増減
中間配当	25.00 円	35.00円	+10.00 円
期末配当	40.00 円	35.00円	△5.00 円
年間配当	65.00 円	70.00円	+5.00 円

4ページ目をご覧ください。

こちらはの連結決算概要です。

新型コロナウイルス感染症の影響により先行き不透明な状態が続きましたが、

当社グループの2022年3月期の業績は、

取扱高 1,342億円、

売上高 853億700万円、

営業利益 38億2,400万円、

経常利益 38億7,900万円、

当期純利益 22億4,600万円、

となりました。

営業利益、経常利益、当期純利益は期首の予想を上回る実績となりました。

尚、当期末の配当金は1株当たり30円を予定しておりましたが、

10円増配し、1株当たり40円とさせて頂く予定であります。

これにより中間配当25円を加えた年間配当金は、

1株当たり65円となる予定であります。



セグメント別事業概要 (売上高)

電力事業

(百万円)



化学・エネルギー事業

(百万円)



◆ 電力事業

- ・ 敦賀地区原子力発電所向け安全対策工事等の大型商談売上が寄与
- ・ 火力発電設備の定期修理や設備更新等の延期の影響により売上減

◆ 化学・エネルギー事業

- ・ 前期より連結子会社化したセイカダイヤエンジン(株)の業績を通期で計上
- ・ 敷島機器(株)の業績が寄与

産業機械事業

(百万円)



グローバル事業

(百万円)



◆ 産業機械事業

- ・ 飲料会社向け新設バイオマス発電設備の売上が寄与
- ・ 国内繊維およびエンジニアリング会社向け産業機械等の売上減少が影響

◆ グローバル事業

- ・ 中国向け繊維原料の販売価格上昇

次に、セグメント別売上の実績はご覧の通りです。

電力事業は福井県敦賀地区の原子力発電所向け安全対策工事等の大型商談が売上に寄与したものの、その他火力発電設備の定期修理等の延期により売上高は約6%程減少いたしました。

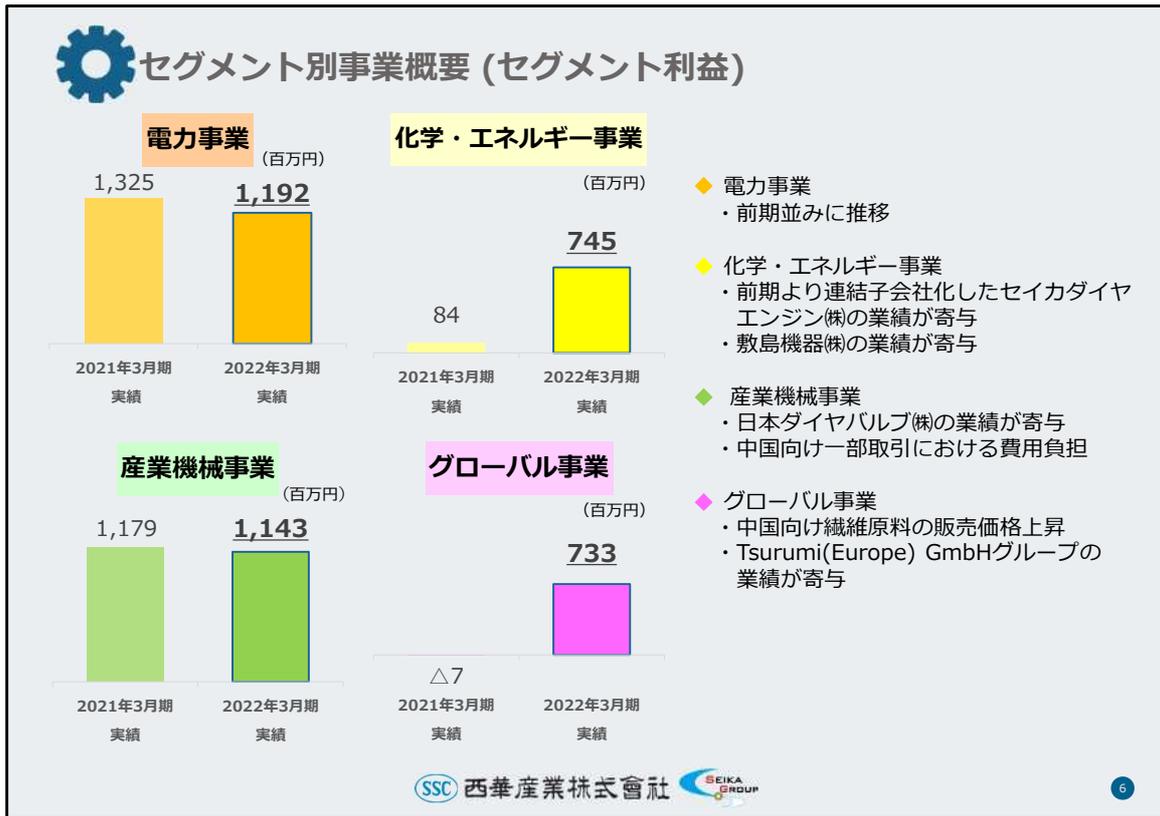
産業機械事業は、飲料会社向け新設バイオマス発電設備の売上があったものの、国内繊維およびエンジニアリング会社向け産業機械の売上が伸びず、全体として売上高は約5%程減少いたしました。

化学・エネルギー事業は、前期に連結子会社化したセイカダイヤエンジンの業績が通期で計上されたこと、並びに敷島機器の堅調な業績が寄与し、売上高は大幅に増加いたしました。

グローバル事業は、欧州地区の子会社業績が好調に推移し、加えて中国向け繊維原料の販売価格の上昇により、売上高は約40%程増加いたしました。

尚、2022年度の新たな取り組みとして、2つご紹介いたします。産業機械事業においてはドローンによるプラントおよび製造設備の点検サービスを開始いたしました。同サービスの詳細については後程、ご紹介させていただきます。

また化学・エネルギー事業では、セイカダイヤエンジンが昨年10月に、ミドリムシ由来のバイオ燃料で有名な株式会社ユーグレナと、次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」の漁船用エンジン向け供給と活用において相互提携いたしました。SDGsが掲げる「海の豊かさを守ろう」の理念を基に、この取り組みを推進してまいります。



セグメント利益についてご説明申し上げます。

電力事業は、11億9,200万円、
 産業機械事業は、11億4,300万円となりました。
 両事業とも売上の減少に伴い、セグメント利益も若干減少いたしました。

化学・エネルギー事業は、売上の増加に伴い、
 セグメント利益は、7億4,500万円と大幅に増加いたしました。

グローバル事業は、タイのプリント基板製造販売会社の撤退処理も
 終わり、加えて中国・欧州の子会社業績が寄与し、セグメント利益は
 7億3,300万円と大幅に増加いたしました。



セグメント別事業概要

(百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2021年 3月期 実績	2022年 3月期 実績	増減額	2021年 3月期 実績	2022年 3月期 実績	増減額
電力事業	12,156	11,363	△793	1,325	1,192	△133
化学・エネルギー 事業	11,100	22,261	+11,161	84	745	+661
産業機械事業	37,067	35,191	△1,876	1,179	1,143	△36
グローバル事業	11,608	16,490	+4,882	△7	733	+740
合計	71,933	85,307	+13,374	2,581	3,815	+1,234

こちらは、先程ご説明しましたセグメント毎の売上高、利益の一覧表であります。
ご確認ください。



02

2023年3月期 連結業績予想

続きまして、2023年3月期の連結業績予想について
ご説明します。



2023年3月期 連結業績予想

	2022年3月期 実績	2023年3月期 通期予想	増減率 (前期比)
取扱高 (注)	134,261 百万円	170,000 百万円	+26.6 %
売上高	85,307 百万円	95,000 百万円	+11.4 %
営業利益	3,824 百万円	3,700 百万円	△3.3 %
経常利益	3,879 百万円	3,700 百万円	△4.6 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,246 百万円	2,500 百万円	+11.3 %

(※1) 連結業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算定しております。

(※2) 「取扱高」については、「収益認識に関する会計基準」等を適用しない場合における数値となります。

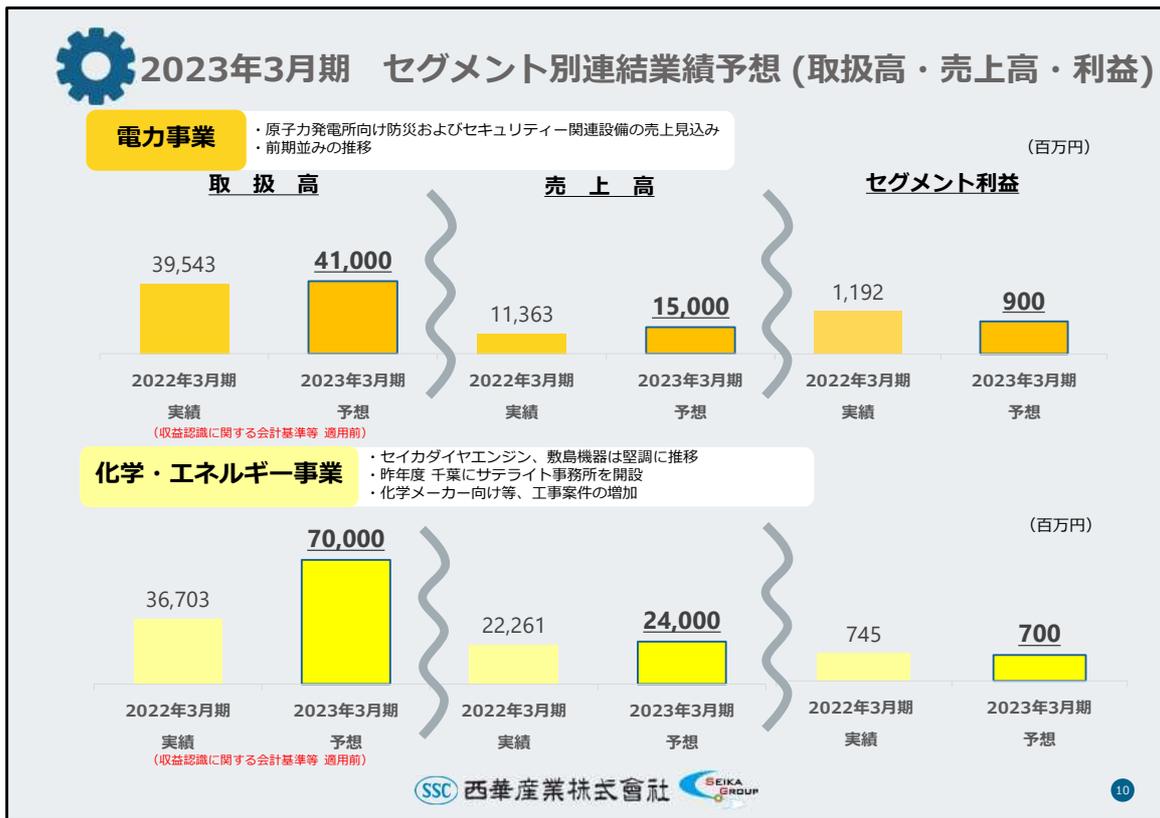
	2022年3月期 予想	2023年3月期 予想	前期比
中間配当	25.00 円	35.00 円	+10.00 円
期末配当	40.00 円	35.00 円	△5.00 円
年間配当	65.00 円	70.00 円	+5.00 円

2023年3月期の連結業績予想の概要についてご説明します。

取扱高は 1,700億円、
売上高は 950億円、
営業利益は 37億円、
経常利益は 37億円、
親会社株主に帰属する当期純利益は25億円を予想しております。

2020年4月から、「変革と挑戦、強く価値ある企業へ」
を基本方針とした中期経営計画「Re-SEIKA 2023」に
取り組んでおります。
最終年度にあたる2023年3月期の数値目標は、
営業利益 37億円、当期純利益 25億円としております。
現状のところ、この目標数値は達成出来るものと考えております。

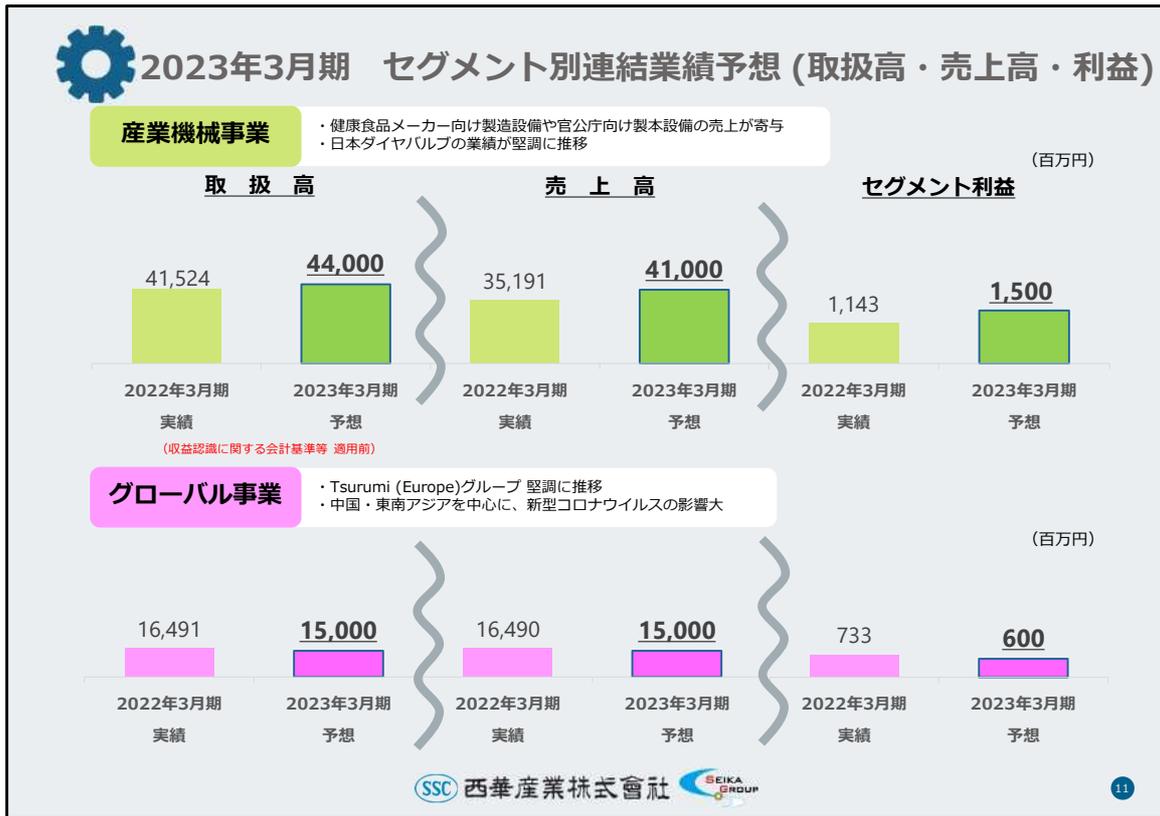
尚、現進行期の配当金につきましては、配当性向35%を目処に、
年間配当金70円を予想しております。



次に、セグメント毎の売上高、利益についてご説明をさせていただきます。

まず電力事業は、原子力発電所向け防災およびセキュリティー関連設備の売上が見込まれ、
売上高 150億円、セグメント利益 9億円
を予想しております。

化学・エネルギー事業は、セイカダイヤエンジン及び敷島機器の業績が2022年3月期には及ばないものの、堅調に推移する事が見込まれ、
更に昨年度開設した千葉サテライトオフィスによる顧客開拓や、化学メーカー向け大型工事案件による売上の増加が見込まれることから、
売上高 240億円、セグメント利益 7億円 を予想しております。



続きまして、産業機械事業は、健康食品メーカー向け製造設備や官公庁向け製本設備の売上が寄与し、また日本ダイヤバルブの業績も好調に推移する事により、売上高 410 億円、セグメント利益 15 億円となり、いずれも前年度より増加を予想しております。

最後に、グローバル事業です。中国・東南アジアの子会社は、新型コロナウイルスによる営業活動制限等の影響を受け業績が低迷いたしますが、Tsurumi (Europe)グループが現進行期も堅調に業績が推移する見込みであり、売上高 150 億円、セグメント利益 6 億円と前年度並みの予想をしております。



2023年3月期 セグメント別連結業績予想

(億円)

	取扱高			売上高			セグメント利益		
	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 予想	増減額	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 予想	増減額	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 予想	増減額
電力事業	395.4	410	+14.6	113.6	150	+36.4	11.9	9	△2.9
化学・エネルギー事業	367.0	700	+333	222.6	240	+17.4	7.4	7	△0.4
産業機械事業	415.2	440	+24.7	351.9	410	+58.1	11.4	15	+3.6
グローバル事業	164.9	150	△14.9	164.9	150	△14.9	7.3	6	△1.3
合計	1,342.6	1,700	+357.4	853.0	950	+97.0	38.1	37	△1.1

「取扱高」については、「収益認識に関する会計基準」等を適用しない場合における数値となります。

こちらは、セグメント毎の取扱高、売上高および利益予想の一覧表であります。



03

長期経営ビジョン VIORB2030

続いて、4月22日に開示いたしました
長期戦略「VIORB2030」のご紹介です。

長期経営ビジョン

VIORB 2030

「地球環境と調和した持続可能な エネルギー創出・産業活動を支援する」

というパーパス(存在意義)を实践し、豊かな社会の実現に貢献
するため、2030年に向けた長期経営ビジョン
「**VIORB 2030**」を策定しました。

《当社の存在意義》

エネルギーおよび産業のインフラ分野に強みを持つ商社を核と
する企業グループとして、地球環境と調和した持続可能な
エネルギー創出・産業活動を支援して行きたい。

当社は

「地球環境と調和した持続可能なエネルギー創出・産業活動
を支援する」

というパーパスを实践し、豊かな社会の実現に貢献するため、
2030年に向けた長期経営ビジョン

「**VIORB 2030**」を策定いたしました。

エネルギーおよび産業のインフラ分野に強みを持つ商社を核
とする企業グループとして、

地球環境と調和した持続可能なエネルギー創出・産業活動を
支援して行きたいと考えております。

長期経営ビジョン

VIORB 2030

《事業面での重点分野》

脱炭素

脱炭素のユーザーニーズと技術革新を機敏に捉えビジネス化

省エネ
省資源

省エネ・省資源に関する産業界の恒久ニーズへの支援を拡大

サーキュラー
エコノミー

サーキュラーエコノミーの進展・実現の動きへの対応を強化

DX

デジタルトランスフォーメーションを広義に捉え商機を探求

VIORB 2030 策定にあたり、事業面の重点分野に「脱炭素」「省エネ・省資源」「サーキュラーエコノミー」「DX」の4点を置きました。

「脱炭素」ではユーザーニーズと技術革新を機敏に捉えてビジネス化を推進致します。

「省エネ・省資源」では産業界の恒久ニーズへの支援を拡大いたします。

「サーキュラーエコノミー」では、その進展・実現の動きへの対応を強化、

「DX」では、これを広義にとらえ商機を探求してまいります。

長期経営ビジョン

VIORB 2030

《経営面での主要施策》

キャッシュマネジメントの仕組みの整備による資金余力の最大化

100億円規模の事業投資による既存事業の深化と事業領域の拡張

SDGsに資する事業や活動を応援するための**10億円のファンド**を設定

組織スリム化と生産性向上による重点分野への人的リソース投入

グループ各社毎の特性を踏まえた強みを明確にし**経営資源を集中**

経営面に関しては、こちらの5点を主要施策にあげております。
キャッシュマネジメントの仕組みの整備による資金余力の最大化や、
100億円規模の事業投資による既存事業の深化と事業領域の拡張、
SDGsに資する事業や活動を応援するための10億円のファンド設定、
組織のスリム化と生産性向上による重点分野への人的リソース投入、
グループ各社毎の特性を踏まえた強みを明確にした経営資源の集中
などに注力してまいります。

長期経営ビジョン

VIORB 2030

「成果を測るための指標」

2030年度
グリーンイノベーション
関連取扱高
1,200億円

「連結純利益到達目標」

2030年度
連結純利益
到達目標
40億円

活動の成果を測るための指標として、
2030年度までに環境に好影響を与える、または配慮した機能や性能を持つ設備・機器・製品等の販売高をグリーンイノベーション関連取扱高と称し、
1,200億円を目指してまいります。
これらの活動により、2030年度には連結純利益40億円の達成を目指します。

ドローンによる点検サービスの拡大 ～省エネ・省資源化への取り組み～



Terra Drone社への出資・国内総代理店契約を締結

タンクや煙突等の**板厚測定**が可能



仮設足場が不要となり

- ✓ コスト削減
- ✓ 作業効率の向上
- ✓ 高所や危険物エリアでの安全性確保

当社の強みである**営業力** × Terra Drone社による**技術力**

電力、鉄鋼、石油、化学等の現場において
プラントや製造設備の「**スマート保安**」を実現

続きまして、先程少しお話申し上げました、当社の新たな取り組みであり、またV I O R B 関連商材でもありますドローンビジネスについてご紹介いたします。

当社は、産業用ドローンサービスを提供するテラドローン社へ出資し、超音波検査装置搭載のドローンによる点検サービスの国内総代理店契約を締結いたしました。

ドローンによる点検は仮設足場の設置が不要であるため、コスト削減や作業時間の削減、更に高所や危険物エリアでの安全性確保など、経済産業省が進める「スマート保安」の推進に貢献するものと考えております。

本年3月のビジネス開始以来、製鉄・化学など幅広いユーザーに高い評価を得て、着実に実績を上げてきております。



Seika Digital Image
西華デジタルイメージ株式会社







西松建設



西華デジタルイメージは西松建設株式会社と共同で、
一般土木工事などに使用される土砂の品質を現場で効率的に管理できる
画像解析技術を用いた**盛土材料品質確認装置**を開発

<p>従来のふるい試験</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">物性試験</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">試験施工 (品質・施工確認)</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">施工</div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">▼</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center; width: 50px; margin: 0 auto;">2日以上</div>	<p>本装置による測定</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現場で容易に測定可能 ✓ 幅広い粒度に適用可能 ✓ 優れた測定精度 ✓ 優れた可搬性 ✓ 粒度分布と色彩の測定で 土砂変化を判断
--	--	--

数十分に短縮 (1試料あたり)



西華産業株式会社





続いてこちらのページでは、当社の関係会社である西華デジタルイメージと西松建設株式会社との共同開発案件についてご紹介いたします。

西華デジタルイメージは西松建設株式会社と共同で、土木工事の品質向上のため、画像解析技術を用いた盛土材料品質確認装置を開発いたしました。これにより、盛土や埋め戻し等に使用する土砂の品質を適切に管理することが出来るようになりました。

従来、使用する砂の粒度試験を現場で行うには、2日間以上を要するなど、大幅な手間や費用がかかっておりましたが、本装置を導入することで、1試料当たり数十分ほどで測定が可能となります。

現在は実証実験中ではありますが、近々実際の現場へ装置を導入予定としております。多くの建設会社から高い関心を得ておりますので、大いに期待をしております。

将来の予測に関する注意事項：

本資料にて開示されておりますデータおよび将来に関する予測につきましては、本日現在入手可能な情報に基づくものであり、予測不能、若しくは不確定な要因により大きく異なる結果となり得ることをご承知おさください。

なお、資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先

企画部 Tel : 03-5221-7117
E-mail : smb002@jp.seika.com



以上をもちまして、2022年3月期の決算説明を終了させていただきます。

株主・投資家の皆様には、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

4月より当社はプライム市場へ上場いたしました。機関投資家の方をはじめ、多くの皆様と建設的な対話の機会をこれからも作っていきたいと考えております。

本決算説明につきまして、ご質問がございましたら、当社企画部が対応いたしますので、お問い合わせ頂きますよう宜しくお願いいたします。

この度は、ご清聴頂き誠にありがとうございました。

以上